

研究発表1 -

精神療養病棟での犬介在療法の効果

新妻由美¹⁾ 工藤直美²⁾ 多田信雄³⁾ 太田耕平⁴⁾

1) 看護師 2) 作業療法士 3) 犬介在療法士 4) 医師・名誉院長

医療法人耕仁会札幌太田病院 精神療養病棟

1. はじめに

当院では、患者と犬双方に配慮した誰でも参加可能な小型犬による『犬介在療法十段階(以降 AAT 図1参照)』(太田考案)を実施している。今回精神療養病棟での AAT の効果として 統合失調症、自閉的で自ら首を絞める行為のある A 氏の病的体験、社会性の改善があった事例報告。精神療養病棟入院者 49 名・看護師 23 名を対象に AAT についてアンケート調査から社会的・心理的效果について報告する。

2. 事例報告

1) AAT 第1～第4段階

初回導入は医師により「犬への接近十段階」に従い実施された。周囲に無関心で、無表情であった A 氏だが、犬が訪室すると自然に目を合わせ、手で触れ「何ていう犬? 可愛いですね。名前は?」と反応を示した。犬が手を舐める返答変わりの表現をすると、自然と笑顔を見せた。A 氏の表情の変化に側にいたスタッフは一同驚き、AAT を継続する事にした。

2) AAT 第5～第8段階

声掛けをすると、簡単な躰ができるようになっていった。犬との触れ合いにより、「犬といると嬉しい。みんなに好かれていいな」とレポートに記載し始めた時期、両親、更には職員に対し自分の想いを表現できるようになった。

3) AAT 第9～10段階

単独で犬と散歩を行ない、犬を待つ他患を訪れる行為が奉仕活動として自覚でき、同時に周囲へ感謝の念が生じ、手足の拘束時に受けた援助を高齢者への奉仕活動として恩返しができるようになった。役割認識を得る事で生きがいを持ち、希死言動が軽減し他患との交流が拡大している。

3. アンケート結果

「犬が病棟に入り AAT を実施することは治療上どう思うか。」との問いに患者 37 名が「良い」と答えた。そのうち AAT の効果について、「癒される」が 30 名。「会話が増えた」19 名。「ストレスが軽減した」が 19 名等と回答を得た。看護師へのアンケートでは「犬が来ると病棟が明るくなった」19 名、「患者同士の会話が增えた」17 名「犬がいると精神状態が安定している」が 14 名と回答が得られた。

4. まとめ

A 氏の例では、第1～4段階では適度な距離を置く事で、A 氏と犬との間に安心感が

研究発表1 -

生まれ、自然と笑顔を見せる自己感情を表現できる機会に。第5~8段階で犬の世話が、保護者的な役割となり、自信に繋がり、言葉やレポートを通して、家族やスタッフに自己表現出来るようになっていった。第9~10段階の現在では奉仕活動ができるほど他患者との協調性の促進・交流の拡大が認められている。アンケート結果からみても、AATは心理的効果、社会的交流の拡大が認められる結果となった。精神療養病棟でのAATの効果として、犬は無条件に人を受容し、その人に安心感を与える。感情表現の効果がある。犬と一緒にいる事が保護者の役割となり、責任を担うことが自己認識の改善作用となる。犬の周囲に自然と人が集まる事で、会話が促進され、病棟の雰囲気明るくなり、社会的交流の拡大が期待できると考える。

引用・参考文献

- 1) 太田耕平：幼時から高齢者までの心の発達十段階心理療法.第11版.医療法人耕仁会札幌太田病院.2011
- 2)横川章光：アニマルセラピーとは何か.第6版NHKブックス.2004
- 3)B.ガンター著：ペットと生きる ペットと人の心理学.第2版.(株)北大路出版.2006
- 4)田丸政男：補完.代替医療アニマルセラピー.第1版.金芳堂.2006

図1

犬への接近十段階

第一段階 眺める アイコン タクト	第六段階 犬が指の臭いを嗅ぐ
第二段階 犬の気持ちを推察 する	第七段階 犬が指先を舐める
第三段階 犬に安心感を与 える	第八段階 鼻をなでてやる
第四段階 少しずつ近づく	第九段階 顎 頭をなぞる
第五段階 あごの下に指先を 伸ばす	第十段階 体をなぞ、ゆっくり 膝に抱き上げる(介 護者が支援)

犬介在療法十段階

第一段階 犬を目で追う 犬の心をよむ	第六段階 犬の対応方法.注意 点を吟味できる
第二段階 犬の側による 安心感を与える	第七段階 抱っこできる
第三段階 名前を呼ぶ 好意を示してやる	第八段階 段階的にしつけが できる
第四段階 頭や背を撫でる	第九段階 犬を室内.室外に散歩 させる
第五段階 おやつを与える (量・内容の吟味)	第十段階 すべて可能 (給水・排便処理な ど)

